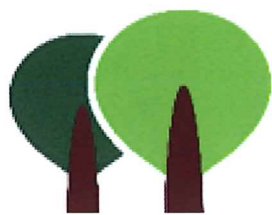


# アフター通信

2021年12月15日 NO. 60  
20周年記念12月、1月合併号  
特定非営利活動法人  
アフタースクール運営会  
文責 理事長 矢野 潤



## 20th Anniversary SINCE 2001

理事長 矢野 潤

NPO法人を取得した、2001年12月から、今年で丁度、創立20周年目を迎えます。

これもひとえに、利用者の皆さま、会員の皆さま、地域の皆さまのご支援、ご厚情による賜物と心からお礼申し上げます。

また、毎日、利用者のために福祉サービスに携わっている全スタッフの方々にも、感謝しております。

思い起こせば、20年前の2001年は、障がいのある方たちへの、福祉サービスも不十分な状況でした。

そのような中で本会を立ち上げた方々の奮闘があり、「障がい児・者およびその家族に対して、日常生活上の種々の支援に関する事業を行い、もって地域福祉の向上に寄与することを目的とする」という本会の理念を実現するために、努力を重ねてきました。設立当初の方々には、大変な中での対応に感謝申し上げます。

この20年の間に障がいのある方々の福祉サービスも大きく前進してきました。

本法人も、利用者のためにと、福祉サービスを実施してきて、現在のように4つの事業所を持った大きな法人となって、現在にいたっています（居宅介護サービス EDI、児童デイサービスプレイズホーム、生活介護事業所くれーる、相談室こぼん）

そして、4つの事業所の療育や支援等の活動内容は、他の事業所と比較しても素晴らしい取り組みとなっていると考えます。

また、全職員27名のうち、正職員11名、臨時職員15名、理事1名となっており、それぞれの立場で、連携しながら仕事に従事しています。

また、今のアフタースクール運営会がどのようにして成り立っているかを再度確認し、設立当初のNPO法人の理念をもう一度かえりみて、その理念にそった利用者の皆さまへの支援をしていく必要があると考えます。

更に、NPO法人の理念でもある、社会に貢献できる活動を皆さまと共に進めていきたいと考えております。

是非、今後も、本会へのご理解、ご協力をお願いいたします。

まずは、略式ながら書面をもちまして、創立20周年のご挨拶を申し上げます。



# 「20周年にあたり」

石山商店街振興組合 理事長 大磯 英太郎

このたびアフタースクールさんが、20周年を迎えられること大変うれしく思います。ここ2年間は、コロナウイルス発生で、運営も大変ご苦労されたことと思います。当組合も会議又夏まつりその他、行事もすべて中止になって、会の運営も大変困っていることですが、やっと先が見えるようなこととなって、ほっとしております。貴会も当石山地区に集約と伺っていますが、石山地区は、古い歴史の町で昔日の様なにぎわいがありました。50年程前は、中小商店、石材店、その他工事店など、140店ほど軒をつなげ、大変にぎわいがあったと思います。



時代の変化で、当会の会員も福祉法人の加入が増え、私達役員会員も、もう少し福祉の勉強と理解を深める必要があろうかと思えます。

私自身も役員を4カ所ほど引き受けていますが、もう少し勉強が足りないと思います。

当組合として何かできないかと、これから果たす役割があろうかと思えます。

利用者様又保護者様の皆さまと職員の皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。



定山溪鉄道の旧石切山駅は、現在、石山振興会館として使われています。  
建物の基礎部分には、札幌軟石が使用され、石山商店街振興組合の事務所も併設されています。

# 「アフタースクールの原点に戻って」

アフタースクール応援団 佐藤満雄

NPO設立20周年おめでとうございます。

設立以前から、アフタースクールに関わり、最近まで役員を務めておりましたものとして、一人の感があります。

思い起こせば、アフタースクールの原点は、保護者たちが障がいのある子どもたちの学校休業中におけるサマーキャンプを自ら企画し、自らボランティアを養成し、自らで協力者を募って成功裡に終えた事がスタートでした。その企画会議にも参加させていただきましたが、あふれる熱情に、障害者福祉の原点を見たような気がします。

このような素晴らしい原点を持つアフタースクールですが、その後は、支援費制度の導入・廃止等の無責任な行政の施策に振り回されたりしつつも、事業を拡大して、アフタースクールの「アフター」を学校卒業後という概念にまで広げて障害者福祉に貢献し続けております。

これから30年に向かって進むわけですが、アフターの原点である「障がいのある子のために立場を超えて協力し合うという心」だけは、決して忘れてほしくないと思っています。



## 「20周年 おめでとう!!」

### 理事 古内 一枝

「アフタースクール運営会の理事を商店街振興組合のどなたかにお願いしたいのですが」と矢野様から依頼されました。「組合に加入して地域とつながりませんか」とお願いした私が理事をお引き受けすることになり、4年になります。

理事として地域とつながるお手伝いができるのが役目と思って理事会も欠席することなく過ごしてきました。念願だった児童デイも石山に移転することが出来、明るい雰囲気建物が建物からも伝わってきます。

20周年という節目を迎えるにあたり、組織の立ち上げや継続していくことの大変さは、私には想像が付きませんが、これからも関わる全ての方々が楽しく、嬉しく、チームワーク良くつなげていくアフタースクール運営会でありますように。微力ながらお手伝いできればと思います。

20周年、おめでとうございます。

## 「20周年に寄せて」

### 理事 大久保 房恵

アフタースクール運営会の創立20周年をお祝いし、関係者の皆さまと喜びを分かち合いたいと思います。

私と本会との出会いは、当時の勤務校の保護者さまから立ち上げを教えられ、見学させていただいたのが最初だったと覚えています。当時は、学校5日制に伴って子どもさんの土曜日の過ごし方について保護者の方々がとても熱心に取り組まれていた頃で、私も「めだかの学校」の皆さまに体育館を開放し、様々な遊びを通して一緒に楽しんでいました。

あれから20年の間に、規模を拡大し、内容を充実させ、南区に欠かすことのできない福祉の総合拠点となった本会に、思わぬきっかけから私がこのようにお手伝いさせていただくことになったのも何かのご縁でしょうか。

これからも、石山の地域の皆さまと共にあって、利用者さまにとって安心して楽しく過ごすことができる場所であったり、望むサービスの提供を受けることができる場所でありたいと思います。

さらには職員が福祉の担い手として誇りをもって働ける場所でもあってほしいと思います。

もっと30年、40年と周りから必要とされる「アフタースクール」になっていきたいですね。

### 監事 佐藤健一

アフタースクールの利用者の皆さん、スタッフの皆さん、そして関係の皆さん、20周年おめでとうございます。当法人に少しですが関わってきた者として、心よりお祝い申し上げます。

設立当時を振り返ってみますと、私がまだ釧路で勤務していた頃だったと思います。真駒内養護学校の保護者の方々が、NPO法人を組織して高等部卒業生の居場所を用意するという便りを受け取りました。ちょうど釧路でも、保護者とともにNPO法人づくりに取り組んでいた時でした。

当時は福祉の世界に新しい理念が導入され、それまでの既成の施設や制度に頼るのではなく、生まれ育った地域で家族や支援者と共に暮らしていくことのできる社会を築こうとするものでした。

そんな時代の中でアフタースクールは、真駒内緑町に誕生したのち石山への移転を経て支援事業を展開させてきました。歴代の理事長さんはじめ利用者さん、保護者の皆さん、スタッフの皆さんが一人一人のニーズを大切に適切な支援をと力を合わせて努力されてきた成果だと思います。

昨年来のコロナウィルス感染拡大のため、感染防止の緊張した取り組みが強いられてきたことでしょう。

コロナ禍の困難な中ですが、20年間の足跡と成果を振り返り、石山地域の皆さんに見守られながら一層の充実と発展に向けて歩んでいかれますようお願いいたします。

## 「20周年によせて」

理事 燕 信子

20数年前、初代理事長が『障がいのある子の夏休みを充実させるため』に「サマースクール」を開設。その後札幌市内の養護学校に広まり、養護学校を借りて親や教師・ボランティアがかかわり独自に子どもたちの夏休みの充実に発展していく大きな流れをつくりました。

その後、子どもたちの余暇を充実させたいという願いをもとに「特定非営利活動法人アフタースクール運営会」が設立、それから20年が経ちました。

現在は、児童ディサービス・居宅介護・相談室・生活介護と事業も広がり、石山地区に結集することができ、大きく発展しました。これもひとえに先人の皆様のご支援と努力、そして地域のご理解の賜物と心から感謝したいと思います。

さて、当法人の定款には「第3条この法人は、障害児・者およびその家族に対して、日常生活上の種々の支援に関する事業を行い、もって地域福祉の向上に寄与することを目的とする」とあります。どのように支援していくべきか、どの様な地域にしていきたいか今後に向けて考えました。

私の地域でのことです。寄宿舎から夏休みで帰省した青年が自転車に乗って小学生に近づいたとき、不審者に間違えられたことがありました。障がいのあるということ、小さい時から分けられた療育・学校や放課後で育ち、家から遠くの養護学校や寄宿舎を出た青年たちには、生まれ育った家の周りに理解者や居場所はあるのでしょうか？

暮らしについては、入所施設で暮らすより、グループホームや介助者と暮らす、またはアパートなどで暮らし、地域の一人として地域社会で暮らしていくことが、障がいのある方にとって大事だと言われています。でも、地域社会に居場所はあるのでしょうか？ 親以外の人と暮らすとき、『自分の気持ちを介助者に伝えられるか・・・NOと表現できるか』『自分で打ち込める趣味を持てるか・・・一人で過ごす時間が増えるので』『仕事があること・・・やりがいや生きがいもてるか』『集団の中で折り合いをつけられるか・・・思い通りにならないこともあると我慢できるか』などがとても大切だと、重度心身障害のある息子を通して実感しています。

障がいのある方が地域社会の一員として存在していけるように、小さい時からそんな力をつける支援と、あわせて地域にどんどん出ていき、地域の一員としての居場所をつくり、一緒に地域づくりをしていく事が重要と考えています。当法人の事業や支援の在り方がそれに向かって発展していく事を願います。

## 「20周年を祝って」

JUN 音楽教室主宰 保育音楽療育士 齋藤 淳子

アフタースクール運営会のNPO法人20周年、おめでとうございます。

そして、この様に寄稿する機会を与えて頂き、ありがとうございます。

私が「くれる」様に初めての音楽活動で伺ったのは、2012年3月の事でした。その時に初めてお会いした3名の利用者様には、その後何年も参加して頂き、人数が増えて10名を超える時もございましたが、毎回楽しい音楽活動の時間を共有させて頂きました。

その後、2013年9月からは「プレイズホーム」様にも[音楽遊び]として関わることとなり、現在に至っております。

子ども達とのかけがえのない楽しい時間の中、私自身の音楽療法士としてのスキルを磨かせて頂いておりますが、それもひとえに「くれる」様や「プレイズホーム」様のスタッフの皆さまのご協力のおかげでございます。

今は、「プレイズホーム」様の活動だけになっていますが、利用者様、子どもたちの笑顔と喜びの声に私自身が励まされ、スタッフの皆さまに勉強させて頂き、深く感謝しております！

今後も、少しでも子どもたちの成長や療育に関わっていけたらと思います。

音楽の持つ力を皆さまと分かち合いながら、今後も宜しく願いいたします。

アフタースクール運営会の益々のご発展をお祈り申し上げます。





## 「当事者への継続的支援に感謝！」

健康体操アドバイザー

落合裕昭

開設 20 周年おめでとうございます。

H25 年貴施設と健康体操支援事業を契約し 8 年、時が経つのは早いものです。

この事業は当事者の健康を守るため日常的な運動支援を行うことを目的に開始させて頂きました。くれるでは導入時から積極的に取り入れ、スタッフ全員が利用者さんの状態に合わせ継続的な支援をして頂いていることを嬉しく思います。

一般的に成人になると二次変形などが強くなり健康を損ねることが多く見られ、特に今回のコロナ禍では感染予防のため 3 密を避け社会的距離を保つことが奨励され直接的な支援が難しくなったことから一層健康を損ねることが心配されました。

実際、緊急事態が明けてから支援事業を開始しましたが、コロナ対策で社会的距離を取り接触を最小限にしていた所ではリバウンドしたケースが多く、コロナ禍の状況では当然のことかもしれません。くれるに久しぶりに伺った折も心配していましたが、リバウンドどころか以前より改善したケースを拝見し驚きを覚えました。

「コロナだからと言って直接的支援をしない訳にはいかず継続的に支援を行っていた」とのお話を伺い、改めて貴施設での取り組みに感謝申し上げます。今回、コロナ禍での自粛生活を通して「継続的支援の重要性」を改めて教えられました。

当事者の健康維持に向け、今後も継続的な支援をお願いし 20 周年記念のお祝いの言葉とさせていただきます。



## 児童デイサービス プレイズホーム 管理者 菊池 憂

私が勤めはじめたのは 2009 年です。まだ研修期間だった私が出逢った男の子のことは、12 年経った今でもハッキリと覚えています。はじめは落ち着いて折り紙をしていましたが、途中で自分の思うように折れずに「ジッタジッタする一!!」と大きな声を出し、折り続けられないくらい泣いてしまいました。あまりにも突然のことだったので、驚いたのと同時に仲良くなっていけるだろうか、関係を築いていけるだろうか…と感じました。しかし、毎週一緒に過ごしていくうちに、『職員と利用者』というよりも、『兄と弟』まるで家族のような絆を感じるようになっていきました。その時に、プレイズを子どもたちにとってただの福祉施設ではなく、『ホーム』にしたい…という想いが強くなりました。彼がいてくれたおかげで、目指すものが決まりました。

そんな彼も 20 歳を迎えました。連絡を取り合う関係が続いていて、秋祭りのボランティアに来てくれたり、趣味で描いた絵や漫画を今でも送って見せてくれます。最近、「今、プレイズの思い出を漫画に描こうと思ってまして」という連絡もきました。プレイズを卒業しても、こんな風につながっていけることをとても嬉しく思います。

プレイズで関わる全ての人と、いつまでもつながりを持てる関係を築いていくことが、今の私の目標です。

プレイズホームは今年で開設 15 周年を迎えました。これからも、みんなに「ただいま」と思わず言ってもらえるような『ホーム』であり続けます。



《緑町のプレイズホーム》



## 居宅介護サービス EDI 管理者 高橋 充成

『放課後や休日に子どもたちが過ごせる場所を』目指して任意団体として活動していたアフタースクール運営会が、法人として認可されてから20年目を迎えました。

『居宅介護サービス EDI』『児童デイサービスプレイズホーム』『生活介護事業所くれーる』『相談室こぼん』と4つの部門で現在活動を続けております。

そんな中、私が所属している居宅介護サービス EDI は設立して18年が経ちました。

余暇の過ごし方を考えていた子どもたちは、成長し、卒業し、成人を迎え、社会へ出て仕事をしたり、グループホームで自立生活を送ったりしている姿を見ると、これまでの時間の経過を感じます。私自身もいろいろな経験をさせていただき、反省を繰り返しながらではありますが、皆様のこれまでの頑張りに触れることができたことは、とても貴重なことだと思います。これまでの20年間で大切に想い、当法人と関わりある人たちが良い日々を過ごしていけるように、これからも力を合わせていきたいと思っています。

当法人と関わりのある皆様、今後ともよろしくお願ひ致します。

## 生活介護事業所くれーる 管理者 楡金 杏子

2001年12月に特定非営利活動法人アフタースクール運営会は、始まりました。

それ以前から子どもたちの放課後活動・週休2日制に伴う休日活動・長期休暇の活動を行ってきたと聞いています。研修時に「めだかのがっこう」のビデオを見させていただき、保護者の方々が、『子どもたちが楽しく過ごせる場所を』と考え始めた場所なのだなあと感じたことを今でも覚えています。

居宅介護サービス EDI、児童デイサービスプレイズホームの設立を経て、2011年9月より生活介護事業所くれーるが開所致しました。当時、障害福祉に携わり始めて5年・・・経験も浅く、施設として0からのスタートの上、毎日楽しく過ごせるお手伝いがしたいという思いしかない自分がやっていけるだろうか戸惑いながらの始まりでした。

ゼロからスタートしたくれーるでしたが、今年9月に10年を迎えました。利用者様方が社会人の一員として仕事をする事、毎日楽しく過ごせることなどいろいろ考えていましたが、利用者様・保護者様・地域の皆様に支えられながらここまで過ごすことができたことが一番大きいかなと思います。本当に感謝しております。

私事ですが居宅勤務時から始まり、長い利用者様は15年のお付き合いになります。生活介護事業所くれーるの利用者様はもちろんのこと、当法人で関わっている皆さんが自立に向けて楽しい毎日を送るよう職員一同お手伝いしていけたらと思っています。

今後ともよろしくお願ひ致します。



# 「アフタースクールの20年の主なあゆみ」

- 1997年 5月 任意団体アフタースクール運営会設立
- 1998年 8月 サマースクール開始
- 2001年 4月 地域活動サポートプレイズホーム開設
- 2001年 12月 特定非営利活動法人(NPO)認証取得
- 2003年 7月 札幌市指定事業所居宅介護サービス EDI 開設
- 2006年 8月 札幌市指定事業所児童サービス  
プレイズホーム開設
- 2006年 10月 障害者自立支援法による障害者福祉サービス  
事業者指定  
(居宅介護サービス EDI、児童デイサービスプレイズホーム)



2020年3月まで利用していた真駒内緑町の住宅



- 2011年 9月 生活介護事業所くれ-る開設
- 2015年 3月 相談室こぼん開設

- 2020年 4月  
本部  
居宅介護サービス EDI  
児童デイサービスプレイズホーム  
南区石山に移転

- 2021年 12月  
NPO 法人になって、20周年を迎える





# 「20年のその先へ」

八雲 七

20年という時の重みをより大きく感じるためにあえて数字を大きくしてみる。20年というのは約7300日時間に換算すると17万5200時間となる。途方もない数字である。それもそのはず、産まれたばかりの子が成人として大人の仲間入りをする年月と同じなのだから当然とも言える。ということはアフタースクールも20周年ということで晴れて大人の仲間入りである。

私は大学に入学した時からなのでアフタースクールのEDIさんには14年以上の長きにわたって関係が続いている。

生活介護事業所のくれーるさんにも開所以来10年くらい関係が続いている。少し大げさな言い方をすると人生の一部である。多くの利用者や職員と関わっていくとたくさんの人間関係や人間模様がみえてくる。それは仕事などの社会経験が皆無な私にとっては「社会」を感じさせてくれる貴重な時間（場所）である。人間関係や人間模様はもちろん良い面ばかりで成り立っている訳ではないが、そこも含めての20年という会社の歴史の歩みである。アフタースクールが続いていき20年の先も新鮮な気持ちで歩いていく「プロ集団」だと信じてこれからも長く関係が続いていくことを願う。

※**居宅介護EDIと生活介護くれーる**を利用している方で、**アフター通信**や**くれーる通信**の執筆を担当している。

## 20周年記念品について

南区石山には、札幌軟石の採掘場があり、栄えていたとのことでした。北海道遺産にも選定された札幌軟石を使った実用的な雑貨をつくっているのが石山のポスト館にある「軟石や」さんです。アフタースクール20周年を記念して、特別にアフターのロゴが入った軟石のマグネットを作って頂きました。

利用者の方々にこの通信と共に、お配りいたします。  
未永く、使っていただけたらと思います。



石山のポスト館



編集、発行

特定非営利活動法人アフタースクール運営会  
創立20周年記念通信12月、1月合併号 NO. 60

発行者 理事長 矢野 潤

発行日 2021年12月

〒005-0841 札幌市南区石山1条3丁目2-1

TEL 011-596-0778 Fax 011-596-0148

メール [afterschool-uneikai@clock.ocn.ne.jp](mailto:afterschool-uneikai@clock.ocn.ne.jp)

URL [http://blog.canpan.info/after\\_school/](http://blog.canpan.info/after_school/)

